

# 李總統の「訪日」問題

## 自民党 招請巡り党内摩擦

台湾の中央社は、自民党の村上正邦参議院議員が三月上旬、李登輝総統による退任後の訪日招請計画を発表して以来、同党内の親中、親中両派の議員間で摩擦が生じていると報じた。

それによると村上氏は、

三月下旬、近く予定される江沢民・中国主席の側近来日に配慮した野中広務・幹事長代理から、「計画の慎重な処理」を求められ、また青木幹雄・官房長官からも計画の暫時中止が要請された。しかし村上氏は、「計画そのものは中止できない」としている。

同報道は、もし日本政府が私人としての訪日まで断れば、中国への屈服を意味するものとなり、今後摩擦

は更に強まるだろうと分析している。

### 実現の見通し

### 台湾紙報じる

台湾の一部メディアは四月九日、李登輝総統が退任

### 台湾政府

### 森新首相に期待

### 「日台関係に影響なし」

台湾に友好的な姿勢をとってきた森喜朗首相の就任に、台湾の政界、マスコミは大方、非常に良いニュース。両国関係の密接さに影響はないはず(程建人外交部長)と期待感を見せている。一方中国でも、森首相の「親台湾」姿勢に

「法制日報」は「中日関係の改善の可能性は小さい」との見方を示した。しかし「中国青年報」は「親台色を帯びていても、就任後は慎むはず」と論じた。

### 陳水扁氏

### 日台交流約束

### 日本の議員団と会見

陳水扁・次期総統は三月三十一日、自民党の麻生太郎氏、高橋一郎氏、武見敬三氏ら日華議員懇談会の代

後の今年十一月に、長野県で開かれる「アジア・オーブンフォーラム」に出席するとの見通しを伝えた。また、東京以外の場所でも旧知の森首相との会見もあり得ると報じた。これに対し総統府は、「不可能」と否定したが、具体的な説明は避けた。

### 中国

### 「訪日」黙認か

四月十二日の台北国際放送によると、中国政府関係者は最近、北京の日本大使館における非公式会見で、李登輝総統の訪日に関し

表団と会見した。陳氏は、民進党は日華懇との関係は浅いが今度は交流を進めると約束した。

また同日、民主黨議員の仙谷由人氏、池田元久氏らの訪問も受けた。鳩山・党代表の親書を受け取った陳氏は、鳩山氏にアジアの青年政治家の新善組織結成を建議している。自分は訪日できないので、台北に来て活動を進めてほしい」と語った。

# 総統選と新政権の動向

(社)亜東親善協会副会長 元立法委員 張 建國

三月十八日の総統選挙で、野党民進党の陳水扁氏が中華民国第十代総統に当選した。先ずもって、曾ての立法院の同僚として、心より祝意を表したい。

さて今回の結果を分析するに、選挙は国民党の連戦、民進党の陳水扁、そして国民党を除名された無所属の宋楚瑜三氏の争いであった。当初は宋氏の人気が群を抜いていたが、その後スキャンダル問題で支持率が低下し、三つ巴の戦いとなった。

結果は当選ラインとされた四百五十万票を陳水扁氏が越え、連戦現副総統は二百万票の差で敗れた。陳、宋両氏の得票率はそれぞれ二%余りに過ぎず、陳

た事だ。これは中国大陸に対し、台湾の独立性を示すと同時に、一方では不必要な衝突を望んでいないという現状維持指向の強さも明確に示した訳だ。

陳水扁氏は選挙戦中から、当選後も各国国旗を変えず、一方的に独立宣言もしないと言っていたが、今後の対中国政策、内政外交すべての面にわたって硬軟双方をつまく使いわけ、又現実路線をとる上で、より多くの選択肢を、国民が彼に与えられた形になっている。

組閣人事について取りきたさされているが、事前の予想以上に現実路線をとっており、内外に大きな安心感を与えるものになっているようだ。

次に今後の政策だが、国民が今最も期待しているのは、内政改革であろう。宋楚瑜氏が連戦

「退任後の訪問に不自然さはない」と語り、日本の世論に配慮する姿勢を見せた。そしてその際、李氏に側面を要求した。

## 陳氏故郷に見物客

総統選挙に当選した陳水扁氏の故郷、台南県の官田郷には、毎日数十台の観光バスが訪れ、実家を中心に観光客が溢れ返っている。当選から三週間目の四月八日段階で、既に六十万人以上が訪れており、今後ますます増加の見通し。今や最高人気の観光地だ。

### 最高人気の観光地に



氏に二百万票近い差をつけたのも、国民が従来の内政に大きな不満を持っていたのが原因とされる。李登輝総統の下で政治の民主化が着実に進んだが、黒金

政治、司法の不正などの改革には手がつけられず、むしろ悪化したとされ、これが国民党への批判ともなった。これらの改革は国民党には期待できないといわれる。

この点で陳水扁氏への期待は極めて高く、今後の評価も第一にこれに懸かっている。

さて、海外で注目される対中国政策であるが、硬軟双方を使いわけ、うまく着地点を模索するとういう極めて現実的なものとなるであろう。このような表現が適切かどうか分らないが、過度の緊張を繰り返し、結果的に落ち着くところに落ち着くと予測する。国共内戦の歴史をも

つ国民党より、むしろつまみづくこの見方も少なくない。経済的、人的交流はより進展するものと思われる。実際、不確定要素が多いのはむしろ中国大陸の方であって、その内政事情の安定が大きな要素の一つであることは考えている。

今回の選挙結果を情緒的に考えないで欲しいと考える。日本のマスコミの中には、独立か統一かという形で報道が目立つが、単にそのようなものではない。過去十数年間の民主化プロセスの中で、台湾の国民は着実にその成果をあげ、実に見事な選択をしてきた。又今後もう一度あり続ける筈である。

東アジアの繁栄と発展、そして平和と安全のために、日本の各界の皆様の一層の理解と支援をお願いしたい。